
むぎのデンセツ

伽砂杜ともみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

むぎのデンセツ

【Nコード】

N1777E

【作者名】

伽砂杜ともみ

【あらすじ】

1話完結型の短編です。ミニチュアダックス、むぎ（ブラックタンの）の数々のしでかしてきた出来事。彼女はどれだけのことを、かंगाえていたのだろう。そして、学んでいけるのか。がんばれ、むぎ！

たのしいの！ うれしいの！（前書き）

我が愛娘、むぎ。

今までしでかしてきた本当の出来事を、むぎ視点にて掲載中。
親ばか発言も出てきますので、ご注意を。

たのしーの！ うれしーの！

あたし、むぎ！

毎日がたのしー。

毎日がしあわせ。

起きたときから、寝るときまで。

みんないるだけで、うれしーの！

むぎはヨソから来たコだけど、それがなに？

みんなみんな、遊んでくれる。やさしーし。

家族つてみとめてくれてるの。

「あそんでー！」

って突進しては、いきおいあまって頭突きしちゃうけどさ。

みんなのアゴを、まんべんなく頭突いたよ！

うれしくて、たのしーから。

遊んでくれるまで、いきおいを止めてなるもんですか！

「わかった！ わかったから！」

みんなおなじ事いうよ。

「ごめんなさい」

も聞いた気もする。

うれしすぎてパニックちゃうから、よく覚えてないんだよね。

だから、みんなのアゴ以外にも、頭ぶつけてる気はするんだけど

……気のせいだね。

だって遊べれば、関係ないし。

そのうち、机の下をくぐって遊ぶときなんて、みんなが頭をさわってくれるようになったのよ！

それがもう、うれしくて！

「たのしーね！ たのしーね！」

「わかったから！ おちつけ！」

おとーさんは、いつもそーいつてくれる。

けど、おちつくって……なに？ まあいつか。

そんなこといいながら、おとーさんは大騒ぎさせてくれるの。
ふふ〜！ おとーさん、むぎのことスキでしょう。

ともちゃんにも、うれしくてしかたなくて、飛びつくの。
いきおい余って、ともちゃんの手をかんじゃった。
おもいつきり、かんじゃった。

「いたい！」

って叫んで、むぎになにかがぶつかって。
立っていられなくて、座りこんじゃった。

ともちゃんが、なにかしたの。

そしたら頭がくらくらして、うごけなかったの。

キライなの？ ともちゃん、むぎのこと、キライ？

おかーさんが、コワイ声でなにかをいつて。

ともちゃんが、ふるえる声でなにかをいつて。

「むぎ、おいで？」

とめちゃんも、くるしそうな顔。すこし手をにぎりながら。

むぎのこと、おひざに乗せてくれて、顔をのぞきこんでくれるの。

「かんだら、ダメよ。いたい、いたいだよ」

「いたいなの？ いたい。いたいよね」

おひざの上にいたら、うれしくなっちゃった。

だってキライなら、さわりたくもないでしょ？

だってキライなら、口をききたくもないでしょ？

とめちゃんを見てたら、やっとコワイ顔じゃなくなった。

むぎが、じつと見てたら、なでてくれた。

そしたら、もっともつとうれしーの。

「あそんでー！」

って、また指をかんじやった。

そしたら、またコワイ顔。

でも、頭くらくらしなかった。なにも飛んでこなかった。

むぎだって、ちょっとだけ、しまった！ って思ったんだよ？

ちよつとだけ、すこしならいいかな？ って思ったけど。

とめちゃんは、ヒトサシ指とオヤ指で、むぎの口をあけようとす
るの！

「いたい！……あゝん、しなさい」

って、ひくーい声で。

イヤだもん。やめてよー。

って、またかんだら、また口をあけようとするの。

なんで？　なんでそんなことするの？

でも、ともちゃんが「いたい」っていうと、口があげられるの。

ともちゃんの顔を、目だけで見て、やさしくかんでみた。

そしたら、コワイ顔じゃなくなったの。

すごい、すごいうれしー顔したの。

ともちゃんも、うれしー？

むぎも、うれしー！

って飛びついたら、また頭突きしちゃった。

なんか、目からミズが出てるよ？

ともちゃんって、スゴイことができるんだね。

目からミズだしながら、ともちゃんはむぎの首を下におしつけたの。

「いたいでしょ！」

え？　いたかった？　むぎ、わかんなかった！

これは、あそんでくれてるの？　おしつけゲーム？

次はどーするの？

たのしー！　すっごいたのしー！

ともちゃん、あそんでくれてるのよ。

おとーさんみたく、力いっぱい、あそんでくれる。

で、次はどーするの？

「……もう、むぎをなんとかしてー!」
「いいから、むぎとあそんでー!」

そして、いつものように頭突きになるの。

毎日が、たのしー。

毎日が、しあわせ。

今日は、なにしておそぼーか？

たのしーの！ うれしーの！（後書き）

主演：むぎ（ミニチュア・ロング・ダックスフント。毛色はブラックタン）

内容からして、コメディイなのですが、むぎの名誉のために、「ある意味コメディイ」と長めにつけさせていただきました。

内容的には、ノンフィクションですが、むぎ視点のため、区分には入れておりません。

彼女は、いつだって真剣だ！

この頃のむぎは、3ヶ月くらいです。

ネンネするの！

目がさめたら、たくさんあそんで。
もうダメだとおもったら、ちかくにいる人にくっついてネンネな
の。

ともちゃんが足を外のほうに折りまげてすわってて、
そのカドツコに顔を入れて、ネンネする。
すごく安心。

かくれてるでしょ？ あたし、みんなに見えてないのよ！

そんなともちゃんは、なんか、いつもよりずっとあつたかい。
あつたかいより、熱いくらい。

なのに急に、ともちゃんは立ち上がっていうの。

「寒い！」

急に、ハナがすーっとして、むぎのがさむいんですけど。
うごきたくなくて、ともちゃん見てたら、大きな布を持ってきて、
かぶっちゃった。

ともちゃんが、消えちゃう！
どうしたの？ なんでなの？ むぎの前から消えちゃいけないの
よ！

ながーい布の山が、目の前にあるの。
でも、ともちゃんがないの。いないの。どこ見ても。
かなしくて、寒くなって、山をつたってあるいたら……

はしっこに、とモチちゃんの顔があったのよ！
びっくりなの！

とモチちゃんたら、体がなくなっちゃったのに。
顔だけしか、なくなっちゃたのに。

きもちよさそうに、ネンネしてるの。顔だけで。

……いてよかった。さびしいのよ？ おいてっちゃダメなのよ？

すごくすごく、さびしかったから。

少しでもちかくで、ネンネするの。

顔によじのぼって。上まできたら、もう安心ね。

とモチちゃんと、いっしょにネンネするのよ。

ウトウトしていたのに、とモチちゃんたら、ヒドイのよ！

むぎを引きはなしちゃうの！

なんか、

「息が出来ない！ と思ったら、むぎのお腹か。

もう。意外とペツタリしたお腹なんだから！

横になって首に乗ったら、しまるっちゅーの。……あー、頭痛い」

なんていつてるのか、むぎ、よくわからなかったけど。

ひどいのよ？

顔とはぎゃくの、山のはしのほうに、むぎを引きはなすのよ！

山のなかみが、とモチちゃんの体だってことはわかったけど……

むぎは、とモチちゃんにくっついてネンネしたいの。

ともちゃんだ。って、安心してネンネしたいの。
だって、いつもよりも、あったかいんだもん。

だから、ともちゃんの所に、がんばってあるこうとしたんだけど。
むずかしいの。

山の頂上は、すつごく歩きにくいの。

グニャグニャしてて、ポヨンポヨンしてて。

でも、なんとかまた顔まできたよ！

ともちゃんだら、ずるいのよ？ もうネンネしてるの。

だからむぎも、もつとしっかり。いっしょにネンネできるところ
で、ネンネするの。

さつきよりも、高いところ。

さつきよりも、なんかボコボコしててネンネしづらいけど。

安心なの！

そしたら、またすぐに、むぎを引きはなしちゃうのよ！
ともちゃんだら、どうしてそんなに、いじわるするの？

「だから！ 息出来ないって！」

えー？ よくわかんないもん。

むぎは、だれかにくっついてネンネすると、安心するの。
ネンネして、目がさめたら。また、たくさんあそんでね！

ネンネするの！（後書き）

これも、まだむぎが、お腹ぼってりなチビっこの頃のお話です。
苦しかったんだよー。ほんとに。

最初は、首に乗り。次に顔に乗り。窒息するかと思いました。

……でも、お腹のペツタリさ加減は、なんか面白かったけど。
最終的に、大笑いして、頭痛を押しながら、むぎをなでなでした記憶があります。

今やられたら……キツイですね><（6キロさんなので）

あそんでくれるの？

おトイレおぼえたから、ほかの所にも、行けるようになったのよ！
みんながいる所にしかいられなかったのに。

なんか高いカベがあってね？

えいや！　　ってしたら、手がかかるから、向こうを見られるの。

でもね、むこうにはいけないの。

みんな、またいで向こうに行くのに、むぎがどんなにガンバッテも行けないのよ。

向こうにいるともちゃんを呼んだけど、

「トイレ覚えたらね」

って、いつもいうの。

むぎ、よくわからないっていつてるのに。

でも、一つの所にトイレしたら、すぐくすぐくわらうの。

みんな、うれしいみたい。

むぎをアタマからシッポまで、ずいずいなでてくれるのよ！

うれしくて、うれしくて。

でも、その手をかんじゃうの。うれしいときって、なにか口にしたい？

みんなわらってたのに、すぐコワイカオするのよ？

でもね、むぎ知ってるの。

おこられたら、おヒザにいつて、ゴロンすると わらってくれるのよ。

それでうごかないで、ちゃんとお力オ見て、ごめんなさいするの。

「いたい。ダメよ？ わかった？ そうね……イイコね」

えへへ！ 鼻をツンってされるのがうれしくて、またその手をそーっとかんじやった。

そーっとしたら、おこられないのよ。

でも、つい力がはいっちゃうの。

むずかしいよね？ っていつてるうちに……

すごいの！ カベをどけてくれたの。

もう、すっごくすっごく うれしくて、おかーさんのところまではいつていつたの。

おかーさんは、なんだか上のほうでトントンって音を立ててるの。

もう！ むぎを見てくれないから えいや！ って手をおしつけてみた。

ウレシーってこと、アピールしてみたのよ！

そしたら、ゴツンって音がして、むぎ、おかーさんに おこられちゃったみたい。

なんで「みたい」なのかって？

だって出られた事が、うれしくてうれしくて。

そんなときに、おはなしなんて聞いていられないもんね！

そしたらおかーさんがいうの。

「とも、むぎを捕まえておいてよ！ もう、すっごいヒザ痛い！」

とめちゃんが ちかづいてきたのよ！ あそんでくれるの！
うれしくて、うれしいから、走り回ってあそんだの。

おとーさんが まってたりしてジャマするのよ？

みんなで あそんでくれるの。
おいかけっこなの。

ぜったいに、まけないんだから！

あそんでくれるの？（後書き）

居間の出入り口に、バリケード（ティッシュケースの五箱包み）を作って、むぎが出られないようにしてました。

居間に新聞紙を敷き詰めて、どこにでもトイレしたら、ほめちぎる。しばらく日にちがたてば、大体三箇所くらいにトイレの場所が決まってきます。

そしたら、しない部分の新聞を取り払います。

何日かしたら、二箇所にして。

最終的には、一箇所で作れるまでになります。

……もちろん、失敗したら、一部屋敷き詰めに逆戻りですが。

そして、一箇所にするようになったら、すこしずつ動かしていつて、トイレに決めてた場所まで移動できたら成功です！

移動も日をあげながらしてくださいね。

などという事をしたので、小さなむぎはバリケードを越えられなかったのです。

実際は、日に日に大きくなる彼女。力も強くなる彼女は、自力で「えいや」をし、バリケードなぎ倒してましたけど（苦笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1777e/>

むぎのデンセツ

2010年10月9日07時37分発行